

【短報】千葉県における海岸性甲虫2種の記録

筆者らは、千葉県から初記録となる海岸性甲虫2種を採集しており、以下に記録するとともに、その生態についても報告する。なお、標本はいずれも採集者が各自保管している。

1. クロコブセスジダルマガムシ *Neochthebius granulatus* (M. Satô, 1963)

[銚子市] 3exs., 犬吠埼, 15. III. 2009; 4exs., 同, 23. III. 2009; 1ex., 同, 18. VIII. 2009, 以上, 菅谷採集; 6exs., 同, 19. X. 2009, 小野採集; 1ex., 同, 4. IX. 2010, 菅谷採集; 2exs., 長崎町, 13. X. 2009, 小野採集。

[南房総市] 1ex., 白浜町根本, 20. I. 2010, 小野採集; 12exs., 白浜町塩浦, 18–19. VII. 2009, 亀澤採集; 12exs., 千倉町白間津, 8. VIII. 2009, 亀澤採集。

[館山市] 15exs., 洲崎, 15. VI. 2007; 5exs., 同, 24. VIII. 2009; 2exs., 同, 14. I. 2012; 1ex., 伊戸, 15. IV. 2008; 2exs., 同, 22. IV. 2008; 2exs., 同, 12. II. 2009, 以

上, 小野採集; 4exs., 沖ノ島, 8. VIII. 2009, 亀澤採集。 [富津市] 2exs., 金谷, 26. VI. 2007, 小野採集。

本種は Satô (1963) により、東京都三宅島、静岡県、愛媛県から得られた個体をもとに記載された、ダルマガムシ科に属する体長 1.5 mm ほどの海岸性甲虫である。日本国内では北海道から四国まで広く分布することが知られており (吉富, 2003), 近年は三重県 (生川・岡, 2006), 島根県 (河上・林, 2007) からも記録がある。

千葉県内では岩礁地帯に広く分布し、どの生息地点でも個体数は少なくない。通常は潮間帯から潮上帯の岩の割れ目に潜んでいることが多いが、春から秋にかけては、岩の表面を活発に歩行する姿も観察される。春季にはマウント姿勢で交尾をする個体もみられる。成虫は一年中みられるが、冬季は岩礁の岩の間隙に溜まった泥土の中で、しばしば集団をつくり越冬している (図1)。



図1. 越冬中のクロコブセスジダルマガムシ; 図2. パバチビドロムシ (南房総市産, スケール: 1 mm); 図3. パバチビドロムシの幼虫; 図4. 南房総市の生息環境。

2. ババチビドロムシ *Babalimnichus masamii* M. Satô, 1994

[銚子市] 3exs., 犬吠埼, 18. VIII. 2009, 菅谷採集; 9exs. (幼虫), 同, 19. X. 2009, 小野採集.

[南房総市] 1ex. (他, 複数個体観察), 白浜町野島崎, 15. VI. 2007, 小野採集; 12exs., 白浜町塩浦, 18-19. VII. 2009, 亀澤採集.

[館山市] 1ex. (幼虫), 伊戸, 15.IV. 2008; 5exs. (幼虫), 洲崎, 14. I. 2012; 2exs. (幼虫), 同, 16. I. 2012, いずれも小野採集.

本種は Satô (1994) により記載された, チビドロムシ科に属する体長 2 mm ほどの海岸性甲虫である (図 2). 国内では, 南西諸島を中心に本州および四国まで広く分布しており (Yoshitomi, 1998; Yoshitomi & Satô, 2001; 吉富・新井, 2004; 中島, 2005; 藤谷, 2006; 山地, 2006; 河上・林, 2007; 藤原, 2009; 吉富, 2011), 最近では, 新たに神奈川県三浦半島からも記録された (浅野ほか, 2012, 印刷中).

千葉県における観察では, クロコブセスジダルマガムシと同所的に得られることもあるが, 特に本種の成虫は潮上帯を好む傾向があり, 波の影響をあまり受けない岩の窪みに静止していることが多かった. また, 刺激を受けると勢いよく跳躍し, 時に飛翔もして逃げる姿が観察された. 一方, 幼虫は潮上帯岩礁において, 岩の割れ目に溜まった泥土の中に生息していた. 多くは幼虫の状態越冬するようで, そのような泥土中に楕円球状の部屋を作り, 休眠している姿がみられた (図 3). 幼虫の同定にあたっては, Yoshitomi & Satô (2001) を参照した.

なお, 銚子市犬吠埼の産地は現在のところ, 本種の分布の北限および東限にあたる.

末筆ながら, 本稿を草するにあたり, 種々ご教示を下された吉富博之博士 (愛媛大学ミュージアム) に厚く御礼申し上げる.

引用文献

- 浅野 真・川島逸郎・小野広樹, 2012. 三浦半島の海浜における昆虫類の記録, 第 1 報. 神奈川自然誌資料, 印刷中.
 藤谷美文, 2006. ババチビドロムシの採集記録. 山口のむし, (5): 46-47.
 藤原淳一, 2009. 長崎県におけるババチビドロムシの記録. 甲虫ニュース, (168): 3.
 河上康子・林 成多, 2007. 日本海沿岸の海岸性甲虫類の研究 (2) 島根半島. ホシザキグリーン財団研究報告, (10): 37-76.
 中島 淳, 2005. ババチビドロムシの九州 (宮崎県) からの採集記録. 甲虫ニュース, (151): 17-18.
 生川展行・岡由佳理, 2006. クロコブセスジダルマガムシの

三重県での記録. ひらくら, 50 (4): 62-63.

- Satô, M., 1963. A new inter-tidal species of the genus *Ochthebius* Leach from Japan (Coleoptera: Hydraenidae). Transactions of the Shikoku Entomological Society, Matsuyama, 7 (4): 129-132.
 Satô, M., 1994. Note on the genus *Pseudeucinetus* Heller and its new relative (Coleoptera, Limnichidae). Special Bulletin of the Essa Entomological Society, Niigata, (2): 173-177.
 山地 治, 2006. 岡山県でババチビドロムシを採集. 月刊むし, (430): 19.
 Yoshitomi, H., 1998. A new record of *Babalimnichus masamii* (Coleoptera, Limnichidae) from Yakushima Island. Elytra, Tokyo, 26(1): 160.
 吉富博之, 2003. 日本産ダルマガムシ科. 昆虫と自然, 38(2): 23-26.
 吉富博之, 2011. ババチビドロムシの四国からの採集記録. さやばねニューシリーズ, (3): 22.
 吉富博之・新井浩二, 2004. ババチビドロムシの与那国島からの採集記録. 甲虫ニュース, (148): 23.
 Yoshitomi, H., & M. Satô, 2001. Description of the larva of *Babalimnichus masamii* M. Satô (Coleoptera: Limnichidae, Thaumastodinae). Coleopterists Bulletin, 55 (4): 471-474.

(小野広樹 276-0046 八千代市大和田新田 1075-116 街家式番館 204)

(亀澤 洋 350-0825 川越市月吉町 32-17)

(菅谷和希 790-8566 松山市樽味 3-5-7 愛媛大学農学部環境昆虫学研究室)

【短報】佐渡島で外来種キボシカミキリの発生を確認

日本では, 中国あるいは台湾からの外来生物と考えられているキボシカミキリ名義タイプ亜種 *Psacotha hilaris hilaris* (Pascoe) を, 新潟県佐渡島で採集しているので報告しておく. これまで同地からは記録されていなかったと思われる.

4♂♂, 4♀♀, 小佐渡羽茂村山, 28. V. 2011 イチジク材採取, 28. VII ~ 26. IX. 2011 脱出 (神奈川県立生命の星・地球博物館所蔵).

道路脇に本種にひどく加害された 2 本の植栽されたイチジクを認め, 持ち帰った 1 本の枝から脱出した. これらは前胸背両側の黄白~黄条が中央で前後に多少とも離れているもの (いわゆる関西型) が大部分であるが, 完全につながっているもの (いわゆる関東型) と中間的なものがそれぞれ 1 頭ずつ含まれる. 同時にこの材からは, クワカミキリ 1 頭も脱出した.

羽茂村山付近ではほかにイチジクを見かけなかったが, 小佐渡各地を車中から見た限りでは, ごく少数のイチジクを認めたものの本種に加害されている様子はなかった. このことと, 人目につ